

子育て情報紙 **2019**
ひだまり通信 No.88
 7月

茶北町社会福祉協議会
 茶北町子育て支援センター
 熊本県天草郡茶北町志岐32番地
 TEL (0969)35-1270
 町内無料電話 35-1270
 FAX(0969)35-1270



絵本の紹介

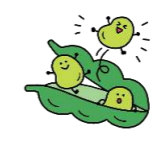
ぶーぶーじどうしゃ
 山本忠敬/文・絵
 福音館書店
 864円(税込)

子ども達の大好きな自動車が続々と登場！見たことのある車がでてくると、ワクワク、ドキドキ、子どもも大喜びです。

開設日	月～金の毎日(祝日を除く)	対象	子育て中の保護者と子ども 子育て中のママのみ マタニティママ(プレママ)
開設時間	午前9時30分～午後3時	利用料	町内 100円 町外 200円
場所	茶北町新ふれあい館		

※ お悩みやご相談があるときは、お気軽にお電話もしくはご来館ください

クッキング(ケーキサレ・ミルクスープ・野菜サラダ)
 ケーキサレは、野菜がいっぱい入ったおかずケーキです。10組の親子が参加し、楽しく作り、離乳食にもとりわけし、みんなでおいしく食べました。



7月の行事予定

3日(水)七夕飾り
 ★みんなで一緒に願いを込めて作りましょう。

12日(金)クッキング

育見情報

みんなニコニコ
 元気いっぱいです

ナイスショット!



子どもがかかりやすい病気とおうちケア

咽頭結膜炎 (プール熱)
原因・・・アデノウイルス
時期・・・主に夏季
症状・・・高熱やのどの痛み、目の充血、目やにが出るなどの症状があります。
 熱は、39～40度の高熱が4～7日程度続きます。熱性けいれんを起こすこともあります。赤ちゃんの場合は下痢や嘔吐などおなかの症状を伴うこともあります。解熱とともに症状は回復していきます。
おうちケア・・・高い熱が出るので、こまめに水分補給をしながら家で安静に過ごしましょう。のどが痛むので、食事はのど越しのいいものを少しずつ与えてください。感染力が強いため、家族とタオルは別にし、手洗いもしっかり行いましょう。

手足口病
原因・・・コクサッキーA群ウイルス
 エンテロウイルス71型など
時期・・・主に夏季
症状・・・手のひら、足の裏や甲、口の中や舌などに、米粒大の赤いブツブツや水疱ができます。口の中の水疱は強い痛みを伴い、食欲が落ちることもあります。手足の水疱は痛まないのでほとんどで、1週間ほどで自然に消えます。熱は出ても1～2日で下がることが多いのですが、下痢や嘔吐を伴うこともあります。
 近年、コクサッキーA6ウイルスによる「新型手足口病」が、流行しており、全身に現れる大きめの発疹、39度くらいの高熱、回復後に爪がはがれるなどの症状がみられます。
おうちケア・・・口の中の水疱がしみて痛みますので、嫌がって食べないようなら無理に食べさせる必要はありません。ゼリーやプリン、冷たいスープなどのど越しのいいものを、何回かに分けて少しずつ与えるとよいでしょう。脱水症状を起こさないよう、水分だけはこまめに取りましょう。治った後も、便からウイルスが排出されるので、おむつの処理には注意しましょう。

中耳炎
原因・・・肺炎球菌、インフルエンザ菌、鼻やのどの炎症など
時期・・・通年
症状【急性中耳炎】鼓膜の内側の中耳が炎症を起こした状態です。細菌やウイルスは、耳の外からではなく、鼻やのどの感染部位から耳管を通して侵入してきます。鼓膜の炎症により発熱、耳の痛みを生じますが、進行すると膿がたまって鼓膜を圧迫するため、高熱になり、痛みも強くなります。
 鼓膜が破れ、たまってた膿が「耳垂れ」として出てくることもあります。赤ちゃんの機嫌が悪くなって耳をさわったり引っ張ったりしていたら、中耳炎を疑いましょう。
 【滲出性中耳炎】鼻やのどの炎症により、中耳付近の粘膜からの滲出液が中耳にたまった状態です。耳の痛みや発熱はなく、聞こえが悪くなるのが特徴です。物音や声に反応しない場合は疑いましょう。
おうちケア・・・耳の中は見えないので、疑ったら受診してきちんとみてもらいましょう。処方された薬はきちんと飲ませ、鼻水はこまめに吸い取りましょう。

とびひ(伝染性膿痂疹)
原因・・・黄色ブドウ球菌、溶連菌
時期・・・主に夏季
症状・・・虫刺されやあせもなどのかき傷やすり傷に細菌が入りこんで化膿した状態になり、それをかいた手がほかの皮膚にふれることにより、次々に赤い水泡が広がっていきます。
 アトピー性皮膚炎など、皮膚がデリケートな人は広がりやすいので注意してください。
 抗生剤の塗り薬や内服薬を処方されます。通常は1週間ほどでよくなりますが、抗生剤が効きにくい黄色ブドウ球菌もあるため、長引くときは、よく医師に相談してください。
おうちケア・・・赤ちゃんの爪を丸く短く切っておきましょう。

細菌性胃腸炎
原因・・・病原性大腸菌、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、カンピロバクター、ポツリヌス菌など
時期・・・通年、特に夏季に多い
症状・・・いわゆる食中毒の原因となることもあります。食物に付着した細菌や毒素が口に入ることで引き起こされます。ウイルス性胃腸炎より症状が重く、強い腹痛や血便、発熱などを伴う場合があります。症状が強いときは抗生剤が処方されることもあります。
おうちケア・・・ウイルス性胃腸炎と同様です。吐き気が強いうちは水分を少しずつ飲ませ、食べられるようになってからも下痢が落ち着くまでは、おかゆやおじやなど消化の良い食事を与えましょう。なお、ポツリヌス菌は、ハチミツに含まれていることがあるため、抵抗力の弱い1歳未満の赤ちゃんにはハチミツを与えないでください。

